

## 国際学会を経験して

情子H23 齊藤 貴彦



## 研究概要

私の所属している中村研究室ではCPUのキャッシュメモリなどに使用されているSRAM (Static Random Access Memory) に関する研究を行っています。近年、パソコンや携帯電話などの小型化に伴い、電子機器に搭載されるLSIも小型化が進んでいます。CPUと同一チップ上に設計されるSRAMはCPUと同様な手法での小型化を行うことが難しく、これまでに様々な小型化手法が提案されてきました。また、近年モバイル機器の普及が進み、搭載されるSRAMも低電源電圧・低消費電力での動作が要求されています。

本発表では将来予想されるSRAMの小型化にも対応でき、低電源電圧・低消費電力で動作できる新しいSRAM回路の提案を行いました。また、新しい評価手法によって、我々のSRAMの優位性を確認することができました。

私は今回、イタリア・ミラノで平成24年5月20日〜23日に開催されたIMW (IEEE International Memory Workshop) 2012というメモリの学会に参加しました。

## イタリアで感じたこと

私にとってこの国際学会参加が初めての海外渡航になりました。ミラノに到着して空港を一步出ると、行き案内看板の英語併記や英語での音声案内が殆どなく、ホテルに向かうのに非常に苦労しました。普段私は、日本で英語の標識や案内看板を何気なく見ていましたが、日本語の通じない外国に来て英語の標識や案内の重要性を感じました。

学会に出発する前、私はイタリアに対して、日本と同じくらいモラルの高い先進国をイメージしていましたが、しかし実際には、高級なレストランでも分煙されていない点やスリが横行している点、派手な地下鉄車両や駅の落書きを見てみると、モラルの高い国と思えず、抱いていたイメージとのギャップを感じ少し残念に思いました。

また、地下鉄の駅の売店では「ワンプリース」や「めだかボックス」といった、日本のマンガがイタリア語で販売されており、イタリアの日常生活に近い所で日本文化を感じられる一面もありました。

## 学会で感じたこと

今回の学会発表は、私にとって初めて自分の英語で他人に物事を伝える機会となりました。さらに本研究テーマでの初めての学会発表であるため、どのような評価を受けるのか非常に不安に感じていました。私の発表は発表最終日の最後から2番目であるにも関わらず、多くの人に発表を聞いてもらうことができました。非常に緊張しましたが、自分のペースだけは崩さないよう心がけ、また単語

## 謝辞

の発音に注意して発表を行いました。しかし、最後の質疑応答ではスムーズな回答ができず、帰国後の英語学習の必要性を強く感じました。

私は今回の国際学会を経験して、研究関連を含め様々なことを学ぶことができました。国際学会の参加の際に、奨学金を援助していただきました明専会に心より御礼を申し上げます。

また、本研究を進めるにあたり、多大なるご指導をいただきましたマイクロ化総合技術センターの中村和之教授に深く感謝致します。

(ローム株)

(平成24年6月記)



国際学会の発表会場にて